

## 大塚英二先生退職記念号 二 挨拶

日本文化学部長 樋口 浩造

大塚英二先生は、一九九七年四月に本学に赴任され、旧文学部での日本文化学科の立ち上げや移転、さらには現在の日本文化学部への改編の中、学部・学科の先頭に立って来られました。その間、二〇〇七年からの二年間の国際文化研究科長、二〇一一年から二年間の学術情報センター長、そして二〇一八年から三年間の日本文化学部長と多くの役職を歴任してこられました。学部・学科、あるいは愛知県立大学のために、健康不安を抱えながらも大変なご尽力をくださいましたこと感謝申し上げます。そしてこの度二〇二二年三月でめでたく退職を迎えられることを、学部構成員一同で祝い、今日までの御礼として、簡略ではありますがお仕事を紹介し、特集号を組み、先生に謹呈させていただきます。

大塚先生のご専門は、日本近世史で、『日本近世農村金融史の研究』をはじめ多くのご著書・ご論文を残してこられました。また、『愛知県史』をはじめいくつもの自治体史の編纂を主導しても来られました。特に近世文書を読解する実力は、日本でも数本の指に入る方だと伺っております。

大塚先生を送り出すにあたって、やはり思い出すのは、世代の近い私たちが「助教授」時代から、たびたび居酒屋などに集まり、お酒を酌み交わし、様々な対話を繰り返してきたことです。私は、学部のこと、学科のこと、そして個人的なことまで、困ったことや迷い事があるときには、大塚先生の研究室を訪ねてきました。これは私にかぎることではなく、大塚先生は頼りになる、何かにつけて相談のつてもらえる良き「兄貴」でした。

地域に根差したご研究をされてきた先生ですから、ご退職後も多くの場所が必要とされ、お忙しい日々を送られるのではと拝察しております。少しゆっくりしてほしいと念じながらも、ますますのご活躍とご健康をお祈りしております。また、これからも変わらず「兄貴」としてお付き合いたいだけのことを願ってやみません。

大塚先生、お元気で。またこれまでありがとうございました。